

國學院大學學術情報リポジトリ

2019年度国際研究フォーラム「21世紀における国学研究の新展開国際的・学際的な研究発信の可能性を探る」報告書

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-14 キーワード (Ja): NDC8:121.52, 国学 コクガク キーワード (En): 作成者: 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001624

開催概要

國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所

2019 年度国際研究フォーラム

「21 世紀における国学研究の新展開 国際的・学際的な研究発信の可能性を探る」

【日時】 2020 年 2 月 8 日（土）10:00 ～ 17:30

【場所】 國學院大學渋谷キャンパス学術メディアセンター 1 階常盤松ホール

【基調報告】 松本 久史（國學院大學）

【パネリスト】 ジョン・R・ベンテリー（北イリノイ大学、アメリカ）

裴 寛紋（KAIST、韓国）

蔣 建偉（中山大学、中国）

ベティーナ・グラムリヒ＝オカ（上智大学）

藤原 義天恩（レスブリッジ大学、カナダ）

※藤原氏は諸般の事情により急遽参加できなくなったため、司会が代読

【コメンテーター】 林 淳（愛知学院大学）

一戸 渉（慶應義塾大学）

桐原 健真（金城学院大学）

【司会】 遠藤 潤（國學院大學）

【使用言語】 日本語

【主催】 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所

【登壇者紹介】

◆松本 久史（Matsumoto Hisashi）

國學院大學神道文化学部教授。博士（神道学）。専門：近世・近代の神道史・国学研究。主要業績：『荷田春満の国学と神道史』（弘文堂、2005 年）、「昭和戦中期の国学研究——藤田徳太郎を例に」（阪本是丸責任編集『近代の神道と社会』弘文堂、2020 年）、「明治維新と国学者——京都一力亭主人杉浦治郎右衛門を例に」（『明治聖徳記念学会紀要』55 号、2018 年）。

◆ジョン・R・ベンテリー (John R. Bentley)

北イリノイ大学人文学部教授 (アメリカ)、Ph. D. 専門：古代日本語の歴史・音韻論・語源研究。飛鳥・奈良時代の文学。主要業績：『*An Anthology of Kokugaku Scholars: 1690-1868*』Ithaca: East Asian Program, Cornell University, 2017. 『*ABC Dictionary of Ancient Japanese Phonograms*』Honolulu: University of Hawaii Press, 2015. 『*Tamakatsuma: A Window into the Scholarship of Motoori Norinaga*』Ithaca: East Asian Program, Cornell University, 2013. “The Search for the Language of Yamatai,” *Japanese Language and Literature* (42.1), 2008.

◆裴 寛紋 (ベ カンムン／Bae Kwan-Mun)

KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology) 人文社会科学部招聘教授 (韓国)。博士 (学術)。翰林大学生死学研究所研究教授、高麗大学民族文化研究院研究教授を経て、現職。専門：日本近世国学思想。主要業績：『宣長はどのような日本を想像したか——『古事記伝』の「皇国」』(笠間書院、2017 年)、「日本的靈性論と国学の生命観」(『東アジア古代学』33 号、2014 年)、「近世国学における死後世界観の始まり——本居宣長の遺言書」(『日本思想』25 号、2013 年)。

◆蔣 建偉 (ショウ ケンイ／Jiang Jianwei)

浙江師範大学講師 (中国)。フォーラム当時は、中山大学歴史学系ポスドク研究員 (中国)。博士 (文学)。専門：日本近世思想史 (儒学と神道、水戸学)。主要業績：「会沢正志斎の国学観——宣長批判の思想構造を中心に」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』67 号、2015 年)、「会沢正志斎の祖宗・名賢祭祀論——民心統合との関係性を中心に」(『東洋の思想と宗教』31 号、2014 年 3 月)。

◆ベティーナ・グラムリヒ＝オカ (Bettina Gramlich-Oka)

上智大学国際教養学部教授。Ph. D. ウェズリアン大学助教、コロンビア大学博士研究員、チュービンゲン大学リサーチ・プロジェクト・リーダー等を経て、現職。専門：日本史 (ジェンダー研究、医療史、経済思想、デジタルツールによるネットワーク研究)。主要業績：『只野真葛論——男のように考える女』(上野未央訳、岩田書院、2013 年)、『日本経済思想史——江戸から昭和』(共著、勁草書房、2015 年)。

◆藤原 義天恩 (ギデオン フジワラ／Gideon Fujiwara)

レスブリッジ大学文理学部准教授 (カナダ)。Ph. D. 専門：近世・近代日本の社会史・思想史。主要業績：「平尾魯僊の聴いた音と音楽——北奥地域のグローバル化と社会変容」(北原かな子・浪川健治編『近代移行期における地域形成と音楽』ミネルヴァ書房、2020 年)、“Channeling the Undercurrents: *Fūsetsudome*, Information Access, and National Political Awareness in Nineteenth-Century Japan,” *The Journal of Japanese Studies*, vol.43 no.2, 2017. 「戊辰戦争と弘前招魂祭に関する一考察——弘前の平田門人を中心に」(浪川健治・小島康敬編『近世日本の言説と「知」——地域社会の変容をめぐる思想と意識』清文堂出版、2013 年)

◆林 淳 (Hayashi Makoto)

愛知学院大学文学部教授。博士（文学）。専門：宗教学・日本宗教史。主要業績：『日本史リブレット人 渋川春海』（山川出版社、2018年）、『近世陰陽道の研究』（吉川弘文館、2005年）、『シリーズ日本人と宗教』全6巻（共編、春秋社、2014・2015年）、『戦後知の可能性』（共著、山川出版社、2010年）、『陰陽道の講義』（共編、嵯峨野書院、2002年）。

◆一戸 渉 (Ichinohe Wataru)

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授。博士（文学）。金沢大学准教授等を経て、現職。専門：日本近世文学。主要業績：『上田秋成の時代——上方和学研究』（ぺりかん社、2012年）、「復古というモード——和学から国学へ」（ロバート・キャンベル監修『近世文学史研究三 十九世紀の文学』ぺりかん社、2019年）、「風雅と教誡——松平定信の細写本歌書製作」（『国文学研究資料館紀要 文学研究篇』45号、2019年）。

◆桐原 健真 (Kirihara Kenshin)

金城学院大学文学部教授。博士（文学）。東北大学助教、金城学院大学准教授等を経て、現職。専門：幕末維新期思想論、近代日本倫理思想史。主要業績：『松陰の本棚——幕末志士たちの読書ネットワーク』（吉川弘文館、2016年）、『吉田松陰の思想と行動——幕末日本における自他認識の転回』（東北大学出版会、2009年）、『カミとホトケの幕末維新——交錯する宗教世界』（共編著、法藏館、2018年）。

◆遠藤 潤 (Endo Jun)

國學院大學神道文化学部教授。博士（宗教学）。専門：宗教学・日本宗教史。國學院大學研究開発推進機構准教授等を経て、現職。主要業績：『平田国学と近世社会』（ぺりかん社、2008年）、「平田篤胤『仙境異聞』の編成過程——〈語り〉と書物のあいだ」（『國學院雑誌』120巻7号、2019年）、「ヨミをめぐる『古事記伝』と『古史伝』——『古事記』解釈における思想編成の力学」（『古事記学』2号、2016年）。

*附記：なお、本フォーラムのコーディネートは齋藤公太氏（当時：國學院大學研究開発推進機構助教、現：神戸大学大学院人文学研究科講師）の尽力によるものである。